

和歌山県立医科大学附属病院 麻酔科

当科の特徴

当科には、常勤として日本麻酔科学会麻酔科指導医7名、同専門医は8名が在籍しており、指導体制が十分整っています。また、当院は、大学病院でありながら、和歌山県唯一の県立総合病院としての公的中核病院、高度救命救急センター、総合周産期母子医療センターとしての使命を持っている病院であるため、あらゆる患者、疾患が集まってきます。当科では、新生児の消化器疾患手術・複雑心奇形手術から超高齢者手術まで、定型手術から高度先端医療、外傷手術まで、あらゆる手術麻酔を経験することができます。また、経験できる症例数も豊富にあり、麻酔科管理手術症例は年間約6,000例にもものぼります。

基本領域の専門医取得後はペインクリニック専門医、心臓血管麻酔専門医、緩和医療専門医、日本小児麻酔学会認定医、日本区域麻酔学会認定医を目指して研修を続けていきます。

なお、学位取得希望者は大学院に入学し

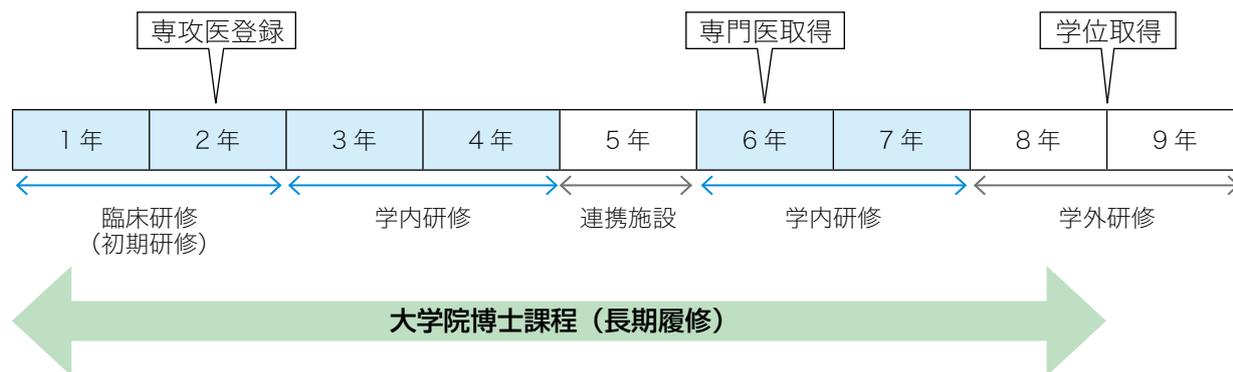
て4年後に学位を取得することができます。”痛みの克服”をテーマに基礎研究を行っていて、現在は「痛みの可視化」、「痛みのセンサー」、「がんの増殖と痛み神経の関与」についての基礎研究を行っています。



ローテーション例

一般枠コース

※ □ は学内研修

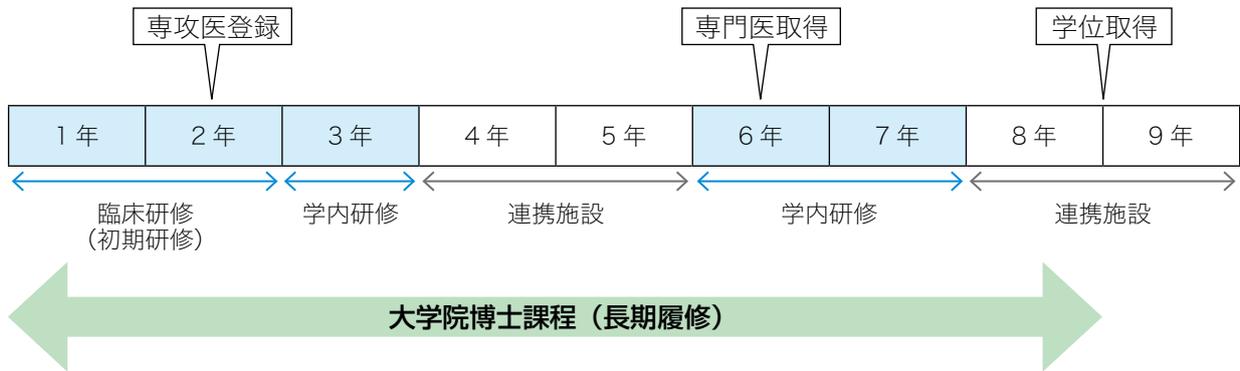


一般枠医師については原則プログラムのローテーションに従って研修を行います。

詳細は卒後臨床研修センター HP (<http://www.wakayama-med.ac.jp/med/sotugo/koki/koki-program.html>) に載っています。

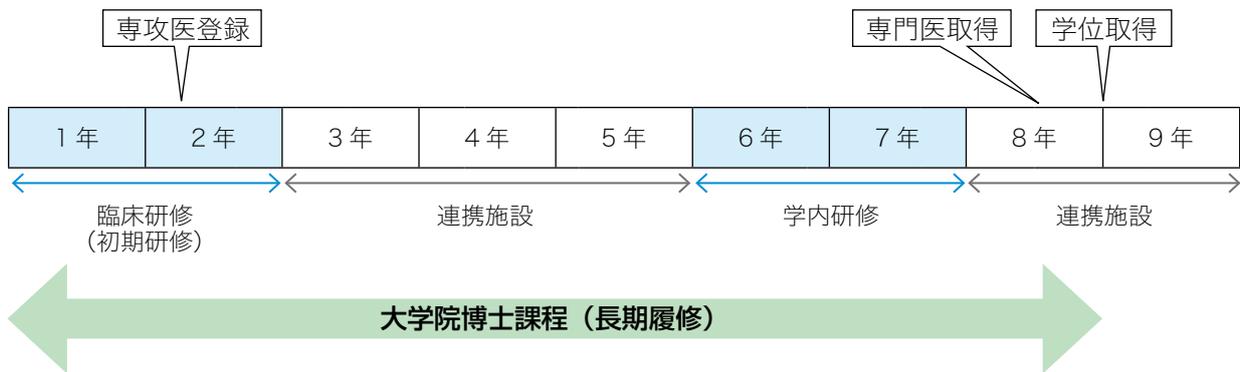
麻酔科専門医取得後は希望するサブスペシャリティに応じて県内の地域中核病院だけでなく、県外の専門病院、国内の大学附属病院での研修を行います。卒後8年目以降にサブスペシャリティ専門医を取得することができます。

ローテーション例 **県民医療枠コース** ※ □ は学内研修



県民医療枠コースでは、和歌山県立医科大学附属病院麻酔科専門研修プログラムで研修することになります。3年目は基幹施設である和歌山県立医科大学附属病院で研修を行います。4年目、5年目は地域中核病院である日本赤十字社和歌山医療センター・和歌山ろうさい病院・南和歌山医療センター等での研修を受けます。また、専門研修をおこないながらも大学院への進学が可能です。8、9年目には地域中核病院で後輩の指導を行いながら、地域中核病院で活躍できる医師を目指します。

ローテーション例 **地域医療枠コース** ※ □ は学内研修



地域医療枠コースでは臨床研修（初期研修）の後、3年から5年目まではへき地医療拠点病院等で研修を行います。6、7年目には大学に戻ることによって高度な医療にも触れる機会があり、8、9年目にはへき地医療拠点病院等で後輩の指導にあたりながら麻酔科のみならず、緩和医療医・総合診療医・家庭医としてのスキルを磨いていきます。

当科との連携施設



県内医療施設のみならず熊本大学病院、信州大学病院、国立成育医療研究センターと連携し研修を行っています。

研修目標

当科での研修は以下の能力を身に付けることを目標としています。

1. 術前・術中麻酔・術後管理
2. 集中治療領域における生体管理
3. 急性痛、慢性痛、がん性痛などの痛みの管理

手術麻酔のみならず、生体管理や痛みの管理ができることによって、患者の命を守り安全で快適な医療を提供できる医師になることを目標とする

経験目標

当科では以下の経験を積むことを修了条件にしております。

麻酔症例	600 例以上
小児（6 歳未満）の麻酔	25 例以上
心臓血管外科の麻酔	25 例以上
胸部外科手術の麻酔	25 例以上
脳神経外科手術の麻酔	25 例以上
帝王切開術の麻酔	25 例以上

教授からのメッセージ



川股 知之 教授

当教室では、経験・勘・職人技に頼った医療ではなく、「Practice（知識と技術）& Science（科学的思考）」を基盤とした理にかなった医療を行う事のできるプロフェッショナルな麻酔科医を育成することを目指しています。

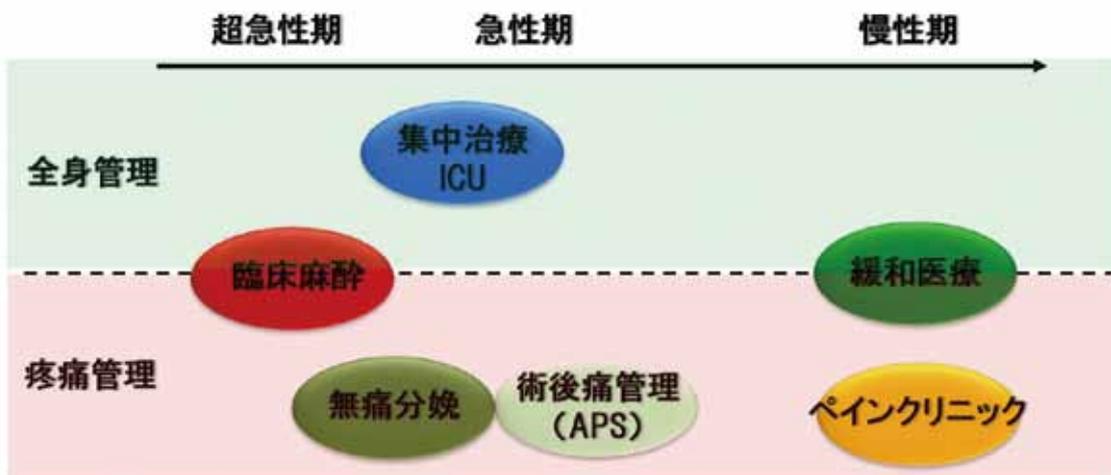
Practice を高めるために、毎週火曜日にレビューカンファレンスと論文抄読会を行うとともに、学外講師を招聘した講演会・ハンズオンワークショップ（和歌山麻酔塾）を2-3

か月に1回ペースで開催しています。

Science を高めるために、研究や論文作成の経験を積み科学的な思考を組み立てる訓練が必要と考え、上記の基礎・臨床研究を推進しています。研究開始前にはキックオフミーティングを行い教室員全員でブラッシュアップを行い、そして、開始後には研究プロGRESSを定期的に行っています。

近年、侵襲制御医学を基盤に麻酔科医の活躍領域は手術麻酔だけではなく、術後痛管理、集中治療、ペインクリニック、緩和医療、無痛分娩と手術室を超えてどんどん広がっています。麻酔科は中央部門として、各診療科で十分に対応することが難しい部分（痛みの care など）を補い、手術室だけでなく病院全体の医療の質を向上させる役割が求められています。これらの分野においても、Science を基盤とした医療を行う事のできる麻酔科医を育成します。

超急性期から慢性期までの麻酔科の役割



当科で取得可能な専門医と指導体制

研修施設	麻酔科専門医	ペインクリニック専門医	心臓血管専門医
和歌山県立医科大学附属病院	19名	5名	2名
日本赤十字社和歌山医療センター	12名	2名	2名
和歌山労災病院	3名	2名	
南和歌山医療センター	2名	1名	1名
紀南病院	3名	1名	
公立那賀病院	2名	1名	
橋本市民病院	1名		
ひだか病院	1名		1名
新宮市立医療センター	1名		

麻酔科学は、手術による痛みを克服するために生まれた学問であり、消毒学とともに手術医療の進歩を支えてきました。さらに、麻酔科学は、手術侵襲から患者を守る“侵襲制御医学”として発展してきました。手術麻酔の目的は、手術侵襲による痛みや防御反応を制御し、患者に安全な手術医療を提供することです。近年、重度の合併症を有するハイリスク手術症例が増加しております。また、外科学の目覚ましい進歩によって、移植医療、覚醒下脳外科手術、心臓大血管手術、神経機能モニター下手術、ロボット手術など高度な医療技術による手術が行われております。これらの症例を安全に管理するために、周術期医療における麻酔科医の役割は益々重要になっております。

また和歌山は、1804年に初めて全身麻酔下で手術をおこなった医聖 華岡青洲を生んだ地です。いわば全身麻酔発祥の地、和歌山で、私たちと一緒に Practice と Science のバランスのとれたプロフェッショナルな麻酔科医をめざしましょう！

ミャンマーでの海外医療支援で活躍する教室員
(毎年2月と9月にミャンマーに麻酔科医を派遣し、現地で医療支援を行っている)

ICUで活躍する麻酔科医

緩和ケアチーム



ペインクリニックでの神経ブロック

緩和ケア病棟



経食道エコーを駆使した心臓手術麻酔管理